

訂正版

「一流校」への全員合格のために

- 県立高校入試まで6か月突入 -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 自分の行きたい学校が「一流校」

- (1)開倫塾では自分の行きたい学校を「一流校」と定義しています。
- (2)開倫塾は全塾生の「一流校」合格を使命(mission ミッション)とします。
- (3)このミッションを果たすため、校長は校舎をあげてありとあらゆる準備(段取り)をお願いします。

2. 「本人の自覚」を促すことが第一

- (1)教育の成果を決定する要因は「本人の自覚」と「教師(先生)の力量」であります。
- (2)「本人の自覚」を促すことは、「教師(先生)の力量」であると開倫塾では考えます。
- (3)そこで、各校舎では、校長が強烈なリーダーシップを発揮して、塾生全員の「本人の自覚」を促す取り組みを段取りを組み、計画的に行うようお願いします。
自覚の不足している塾生は誰か、個人名を明確にし、校長または熱意ある講師がカウンセリングを今月中に必ず終了させて下さい。

「一流校(希望校)」合格に偏差値が不足する塾生には、冷静に現実を伝え、ではどうしたらよいかを、まずは塾生自らの力で考えさせて下さい。

塾生本人が自ら考えた方法が正しいと思われる場合には、全面的に支援してあげて下さい。

塾生本人が自ら考えた方法では合格が困難と思われる場合には、アドバイスを繰り返し、勉強方法の変更を促して下さい。

- (4)方法については、生き方の問題ですので、塾生本人がまずは自分で十分に考えること、アドバイスを受けて、方法を変更する場合にも十分に納得することが大切です。

3. 勉強時間の絶対量の確保の方法を指導することが第二

- (1) 学校から帰り少し身体を休めたら、夕食の時間までに1分でも多く勉強時間を確保すること。
- (2) 夜寝る前に、1分でも多く勉強時間を確保すること。
- (3) 朝食前に、1分でも多く勉強時間を確保すること。
- (4) 学校での授業のない日(土曜、日曜や学校の休校日)は、平日の学校の授業時間に合わせて勉強すること。
- (5) 長 TV、長メール、長電話、長マンガ、長風呂、長ケンカなど長く時間がかかることは「勉強時間の絶対量確保な妨げの原因」になるので、できるだけ短くするのが受験生であることを「自覚」させて下さい。
- (6) 勉強の仕方がよくわからなくて悩んでいる塾生には、今月中に必ず時間を取り「学習の3段階理論」を丁寧に教え、悩みを解消してあげて下さい。
- (7) それ以外のことで悩んでいる塾生には、いくら悩んでも成績は上がらない。「悩む時間は30分まで」と決めよう。悩むヒマ、時間があるなら勉強しよう。このように励ましてあげて下さい。
- (8) 自宅学習が困難な塾生は、帰宅後夕方から夜10時30分前まで(校長先生や先生方の勤務日や勤務時間の範囲内で)、開倫塾の空いている机で勉強させて下さい。

小学生や中学生の他のクラスの授業中、黒板と反対向きに着席させ長時間確実に勉強させる方法が最も効果が上がります。

塾生だけを自習室と称して別室で勉強させる場合、次の諸点を厳守させて下さい(授業中であっても先生は時々見に行くことが大切です。)

- (ア)「座席を指定する」 - 指定した座席以外では勉強を認めない -
- (イ)「机の上に飲食物を置かせない」 - 常にカバンの中に入れておくように指導 -
- (ウ)「ケータイは電源を切らせる」(集中できないので「着信」もさせないことが大事)
- (エ)おしゃべり、居眠りは絶対禁止 - 他の迷惑になり、また、雰囲気壊すので断固たる態度を取る -

* 違反者は帰宅させる。 - 保護者には、帰宅させた理由を必ずその日のうちに、TEL してはっきり伝える。 -

4. 一流校合格に十分な偏差値を確保するには「学び方を学ぶ(Learning To Learn)」能力を身につけさせることが第三

(1) そのためには「学習の3段階理論」自体を明確に「理解」「定着」させた上で「応用」(実際にできるまで)させて下さい。

「確認テスト」の実施

(ア) 「学習の3段階理論」が「理解」できたか、「定着」したかどうか、「応用」できているかどうかの「確認テスト」を実施して下さい。

(イ) 「確認テスト」は、校長が中心となり、各校でつくってみて下さい。

誤答分析の方法を指導

(ア) 自宅や開倫塾の空いている机でどのような勉強をして「一流校合格」を確実にする偏差値を確保するかは、模擬試験を「誤答分析」した上で、科目や各科の分野ごとに勉強方法を変えること。

(イ) 「理解」か「定着」か「応用」か、勉強すべきことをはっきりさせ、それなりの方法を具体的にとることを一人ひとりの塾生に求めて下さい。

開倫塾で勉強するとき、塾生が持参した教材を「漫然」と勉強しても偏差値が上がることは全くないことを「自覚」させることも校長の仕事です。

5. おわりに

(1) この時期最も必要なのは、校長が「全塾生の偏差値を何が何でも一流校合格まで上げる」と決意することです。全塾生の偏差値は校長の力量次第です。校長としての「自覚」を持ち、強烈なリーダーシップを発揮して下さい。

(2) 校長はじめ全ての先生は、毎回の授業で3分間以上の塾生の「自覚を促す」ことを目的とした「武者語り」を確実にやっているでしょうか。

この毎回の授業での「自覚を促す」ための「武者語り」は、開倫塾の全ての先生の「義務事項」ですので、必ず実施するようにして下さい。

「先生としての自覚」を校長は毎日促して下さい。「先生としての自覚」を促す「武者語り」を毎日の校舎ミーティングで行うことは、校長としての「義務事項」です。

(3) ほぼ毎日のようにFAXで、私が書いたものが開倫塾本部から送付されていると思います。必要なものはどんどん全スタッフにも回覧し、「情報の共有化」をした上で、一定のところに保存。

1か月に1回はホチキス等で留めて、折に触れて読み返して下さい。

また、「開倫塾ニュース」や「塾長通信」も確実に保存し、バック・ナンバーを月に 1 回は読み返して下さい。

「カリキュラムの質」「先生の質」「マネジメントの質」の3つが「教育の質」であると確信している私が、皆様に遺せるものは何かとの考えのもとにお送りしているものです。

是非、開倫塾各校舎の共有財産として皆様と活用して下さいね。

以上

参考図

